

思考力・判断力・表現力の育成 ～伝え合い、学び合う授業づくりを通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

○問いや言語活動の工夫を通して、自分の思いや考えを豊かに表現し、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合い、学び合うことで「思考力、判断力、表現力」を育成する。

2 研究の具体的内容

(1) 学級づくり・集団づくり

ア Q-U アンケート実施及び K13 法による分析・「今後の対応策」の検討

イ 各学年の「今後の対応策」の共有化、不満足群の児童の再確認

(2) 授業づくり・授業改善

ア 「自分の考えを持たせるための手立て」「自分の考えを表現する場の設定」「自分の考えを深めるための手立て」を考え、実践を積み重ねる。

イ 表現力を身に付けるために必要な言語活動を充実させ、「甲州市 Teacher's Note」を活用した授業づくりを行う。

第2学年 算数科授業研究「形をしらべよう（長方形と正方形）」

授業者 山下 史江教諭

指導・助言 総合教育センター 河西 絵美副主幹・指導主事

第6学年 国語科授業研究「やまなし」

授業者 中村 弘和教諭

指導・助言 峡東教育事務所 中村 英彦指導主事

ウ 学習会「主体的・対話的で深い学び」と「思考力・判断力・表現力」, 「伝え合い・学び合い」を意識した授業づくり

講師 峡東教育事務所 霜村 文晴主幹・指導主事

エ 一人一実践（授業研究者以外全員）

オ 授業の構造化 板書用「めあて」「まとめ」プレートの活用

カ Q-U 分析結果を載せた指導案づくり・座席表づくり

キ 授業づくりにおける「伝え合い、学び合う子ども」の姿についての意識調査の実施（年2回）

(3) 保護者との連携

ア 「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習ノート（いじりの子ノート）の指導・保護者への周知

イ 各学年の取り組みについての情報交換・系統的な支援の共通理解

ウ 授業参観に合わせた「いじりの子ノート展覧会」の実施

II 成果と課題

1 成果

- (1) K13法によるQU分析の実施で、自分の学級を様々な角度から見直すきっかけになった。「今後の対応策」を全職員で共有化できたことで、自分の学級の今後の方針について、より多くの目で確認をしながら固めることができたことがよかった。
- (2) 伝え合い、学び合うことで課題を解決し、「思考力・判断力・表現力」を育成するための授業づくりについては、意識調査を参考にしながら、授業づくり・授業改善に努めることができた。また、作成した「問い返し&発表方法アイデアカード」などを活用した授業を行うことができた。
- (3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの講演会は、どれも充実した内容のものばかりで、自分自身の教育活動を振り返ることができた。日常の授業や教育活動にどのように生かしていくかで、価値も変わってくる。
- (4) 「いじりの子ノート」は、全職員共通理解のもと繰り返し取り組んだ。アシストカードの提示・活用などの工夫が、レベルアップにつながった。「いじりの子ノート展覧会」は楽しみにしている児童が多い。展覧会をすることで、他の学年のノートを児童や保護者も興味深く見ていることが分かった。

2 課題

- (1) アタックシートを全体で交流・情報交換したことによって、ある程度は共有できたが、十分に生かしきるところまでには至らなかった。また、アタックシート集を更に活用し、対応策をその中から選ぶような方策もとっていききたい。
- (2) 「伝え合い・学び合う」場を設定することや、教師の発問を工夫することなどについては、成果があったと感じる。しかし、そこから児童の考えが深まったり、広がったりするところまでもっていくのは難しいと感じた。一人一実践に関しても、参観者が少ない点が課題であった。
- (3) 「家庭学習の手引き」・「いじりの子ノート」については、今後も年度初めに、職員の意志の統一を図っていききたい。保護者には家庭学習の意義が伝わっていたと思うが、なかなか成果につながらない児童もあり、個別に支援することの必要性を感じた。

III 成果物

- 1 Q-Uアタックシート（全学年）
- 2 授業研究授業案・一人一実践授業案及び実践のまとめ
- 3 授業づくりにおける「伝え合い、学び合う子ども」の姿についての意識調査
- 4 問い返し&発表方法アイデアカード（高）
- 5 井尻小「家庭学習の手引き」（低・中・高）
- 6 いじりの子ノートアシストカード

（研究主任 遠藤香織）